

第 3 回審議会での継続案件について

1 「まちづくりの理念」について

(1) 審議会での取り扱い

第 3 回審議会での意見を踏まえ、「まちづくりの理念」という表記についての対応を事務局で検討し、次回の審議会での審議事項とする。

(2) 審議会での意見

- ・ 市民が受け取る「まちづくり」という言葉のイメージは、ものづくり、ハード面のウエイトが大きい。
- ・ 「人間尊重」を理念に置く場合、「まちづくり理念」という言葉を使うのは、違和感がある。若干時代遅れの感がする。
- ・ 財政状況から見ても、これからは、ものづくりの時代ではない。
- ・ ハード面の意味合いと財政状況から、10 年後に「何もまちづくりができていないのではないか」との評価を受けるおそれもある。
- ・ これからの地域社会、われわれが住む町をどうして行くのかという意味の表現に置き換えられないか。
- ・ 「まちづくり」という言葉に、ソフト面があることは理解している。
- ・ 市民感覚では、「地域社会」というより「まち」といったほうが身近に感じられる部分もある。
- ・ 「まちづくり」という言葉の問題であるから、「基本構想の理念」や「まちと生活の理念」などと言い換えてみることもできるのではないか。

(3) 事務局の検討結果

検討結果

理念に関するタイトル表記については、原案のとおり「まちづくりの理念」という表記とすることで、再度審議会にお諮りしたい。

理由

- ・ 「まちづくり」という言葉は多様な使われ方をしており、最近では、ハード的な意味合いよりも、市民とのパートナーシップによるものなど、ソフト的な使われ方が目立っている。
- ・ 今後ともこの傾向は続くものと考えており、第五次基本構想の計画期間が終了する時期には、「まちづくり」という言葉は、「自分たちが住むまちをどうして行くのか」という意味合いも十分に汲み取れるものとなっていると考える。
- ・ 「まちづくりの理念」という表記は、第三次基本構想において「基本構想の理念」という表記から改められたものである。
- ・ 第四次基本構想の方向性は、一定の評価が可能なものであると捉えており、第五次基本構想は、それを継続し発展させるものと位置づけている。
- ・ 「まちづくりの理念」、「まちづくりの視点」、「将来都市像(まちづくりの目標)」という、一連の表記で構成してある。
- ・ 他の表現と比較した場合も、積極性が感じられ、第五次基本構想で使用する言葉としてはよりふさわしいものとする。

2 「あきしまらしさ」のあふれるまちづくりについて

(1) 審議会での取り扱い

第3回審議会での意見を踏まえ、「あきしまらしさ」という表記についての対応を事務局で検討し、次回の審議会での審議事項とする。

(2) 審議会での意見

- ・ 「あきしまらしさ」ということが実際に何を示すのかわかりにくい。
- ・ 自然環境が豊かなことも「あきしまらしさ」の一つであると思う。
- ・それほど変わったことができるわけではないが、アイデンティティとして何か旗を掲げていくのは大切である。第四次から第五次の計画に変わって、これが出てきたのは良かった。
- ・ 「あきしまらしさ」まちづくりの視点の(1)から(4)までが生かされれば、「あきしまらしさ」が現れてくるので、あえて加える必要があるのかという面もある。
- ・ まちづくりの視点が実現すれば、昭島の特徴は出てくるということだが、やはり歴史や立地条件などを大切にしたい、昭島の個性を打ち出しても良いのではないかと。
- ・ あまり「あきしまらしさ」にこだわると大きな理念としての目標が狭くなってしまふような懸念もある。
- ・ 昭島のブランドとして、どう感じて欲しいかといった思いを、作り上げていくのも一つの方法である。現実としていろいろな問題もあるが、そこに目指していくものを皆で作っていきこうというのが「あきしまらしさ」になるのではないかと。
- ・ まちづくりの視点の(1)から(4)までが抽象的なものに対し、「あきしまらしさ」については、具体的な面があるので、いろいろな意見があるのではないかと。

(3) 事務局の検討結果

検討結果

まちづくりの視点の中で、昭島の個性や魅力といったものへの配慮に触れることは必要と考える。また、その表記については、「あきしまらしさ」を育むまちづくり」という表記とすることで、審議会にお諮りしたい。

理由

- ・ 地域への愛着や、誇りを育み、活性化をもたらすものとして、昭島の個性や魅力といったものへの配慮は必要であると考えます。また、まちづくりの視点の中で具体的に触れ、より積極的に、その重要性を計画に位置づけていきたい。
- ・ 「あきしまらしさ」という言葉は、現時点では具体性に欠ける面もあるが、これからのまちづくりで、市民とともに見出し、作り上げていくといった面が大切であると考えている。その芽生えを、確実に育てていくという意味を含め、基本構想のキーワードの一つとして位置づけていきたい。
- ・ まちづくりの視点の表記としては、創造し守り育てるという方向性をより明らかにするため「あきしまらしさ」を育むまちづくり」としたい。また、文章の構成案は次のとおりとする。

(5) 「あきしまらしさ」を育むまちづくり

地域の個性は、市民一人ひとりの活動が源泉となり、地域のなかで交流し、共通の認識を持ちながらつながりを形成する過程で創出されます。その中で、地域が育んだ歴史や伝統が生かされ、文化の香りと豊かな感性にあふれた昭島の魅力が見出されるとともに新たに創造されます。

「あきしまらしさ」とは、個性と魅力にあふれ品格のある、質の高いまちや地域にほかなりません。地域の中ですべてに見出し、ともに創り上げていく「あきしまらしさ」が内外に広く発信され、人々が繰り返し訪れたいくなる賑わいと活力にあふれたまちづくりを進める必要があります。

市民とともに「あきしまらしさを」創造し、守り育てていく「あきしまらしさ」を育むまちづくりを進めます。

赤字部分が修正箇所です。